

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072200276		
法人名	社会福祉法人 上秋津福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム あきつの		
所在地	和歌山県田辺市上秋津2310-178		
自己評価作成日	令和元年8月16日	評価結果市町村受理日	令和2年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp">http://www.kaigokensaku.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和2年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活を一緒に楽しく、笑顔で過ごす事をスタッフの心得とし、生活の中で食事作り、洗濯、掃除等利用者様が主体的に動ける場面を提供し、生きがいを持って生活でき、利用者様、家族様にとって居心地の良い環境作り、安心して生活が送れるよう支援しています。  
又、将来スタッフが過ごしたいと思えるグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者スタッフ共に「老後必要になれば、この施設で生活したい」を実感共有しながら、人との関わりを大切にしてるのが伺われる。呼称のさん付け声かけの徹底、ていねいな言葉づかいなど、入居者を区別しないムードに溢れ入居者からも『家よりも此処のほうが気楽に居れる楽しい美味しい』と喜ばれている声が出ている。職員それぞれの出来る事を生かして楽しい居場所作りに活かされたと工夫している。地域の中で安心して生活できる様に皆で相談しながら笑顔を活かした家庭的な雰囲気の中でゆったりと楽しく支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に目にすることができる場所に掲示する事で、日頃から意識し共有できる職場環境を管理者と職員がつくり、実践に取り組んでいる。	理念についてみんなで何度か検討し現在の理念に落ち着いている。「ゆったりと楽しく」はただ過ごすのではなく生きがいを持って出来る事を楽しめることを職員は意識し、その様な環境作りに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーに買い物に行った時など地域住民と気軽に挨拶を交わしたり、施設の夏祭りに地域の方が来られ交流を図っている。又、地域の中学生の訪問があったり、幼稚園児とは定期的に交流がもてるように働きかけている。	日々の買い物に、中学生は体験学習、夏祭り、クリーンボランティアに参加してくれており、また今年から幼稚園との定期的な交流が増えたり、高校や看護学校の体験学習も受け入れており、敷地併設の施設との合同行事の中でも地域と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生の体験学習、ボランティアの受け入れを行っている。又、見学、電話での問い合わせ等に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、田辺市のやすらぎ対策課、地域包括支援センター職員、民生委員、町内会の役員、中学校長、幼稚園園長、入居者、家族様に参加して頂き、その時の意見や情報をサービスの向上に活かせるよう努めている。	今年から、幼稚園との交流が増えて双方に良い影響が出ている。参加入居者にグループホームでの様子を聞き、また他のグループホームの管理者も参加しており情報交換している。会議で身体拘束について市の人に聞いたりして、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、又、困った事があれば、訪問、電話で相談させて頂いている。又、市町村が開催する研修に参加し情報交換を行うようにしている。	市担当者が運営会議に参加しており、相談したり困難なことがあれば此方から訪問 電話相談で情報を伝えたり、市町村が開催する研修に参加したり相互に連携協力が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加を行い理解を深め、カンファレンスでも言葉の拘束などしていないか確認しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修、カンファレンスで身体拘束、言葉の拘束をしない介護に取り組んでいる。入居者に待ってもらうことが有る時には理由を言って、納得して貰っている。年1回の外部の薬の勉強会に参加して薬の拘束しない介護にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、虐待に関する理解を深め、会議等で話す機会を作り、虐待を見逃さないよう防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行い権利擁護について理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に説明に疑問点などないか十分時間をとり、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を排出しやすくする為、御家族様の訪問時に必ず声を掛け、そこで得られた意見などをホームの会議で話し合いサービスに反映させていけるように努めています。	日頃から入居者や家族の面会時に意見、要望の出やすい雰囲気をつくる努力をしている。家族の要望で、湯たんぽを使う様になったり、リハビリを法人の理学療法士に教えて貰ったり意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時には必ず職員の意見を聞き、又、職員個々に意見を聞く機会を作ったり、毎月の会議では全職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。	会議や朝の申し送り時に希望、意見を聞き、入居者のやりたいことを家族と行えるようにしている。資格をとる相談など、行きたい研修に行って貰っている。また、お互いに譲り合って、休みが取れる環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り勤務の希望を聞き、働きやすい環境を作るようにしている又、研修会等への参加により向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度法人の研修に参加し、外部研修にも多くの職員が受講できるようにしており、研修で学んだ内容を報告する機会を作り、技術や知識を身につける工夫をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進委員会に参加したり、勉強会に参加し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で、心身の状態や思い、不安に耳を傾け、安心して生活して頂けるように、ご本人、御家族と相談し他利用者と交流が持て馴染めるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立って、家族が求めているものを理解し、どのような対応ができるか事前に話し合いができる環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の思い、状況などを理解し、困っている事や不安な事に対し、どのような支援を必要としているかを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの思いの尊重、さりげない介助、礼儀を大切に、ゆったりと楽しく家族の1員として職員も一緒に過ごし、日々生活のなかで色々な事を教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の関わりをより深め、利用者の心身の状態や日頃の暮らしぶり等を詳しく伝え、意見や希望を出してもらいやすい雰囲気を作っているようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と外泊、外出し、地元の方々と交流されたり、これまで本人を支えてくれたり、また逆に本人が支えてきた人間関係について把握し、今までの生活延長であるよう馴染みの人との関係がとぎれないよう支援に努めている。	家族の協力で外泊外出をし、墓参りや自宅の仏壇にお参りし、馴染みの美容院に行き、編み物好きな入居者が編み物が続けられる様にし、同窓会に行ったり、週1回家族の協力で知人に会ったりなど、馴染みの生活の関係が途切れない様に支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に話を聞いたり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う同士で過ごせる場面作りを行っている。又、利用者の心身の状況や気分、感情の変化に注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもこれまでの関係性を大切に、必要があれば相談や支援をおこなうように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には思いや暮らしの希望を聞いているが、思いや希望が変わってくる為、日々のかかわりの中で言葉や表情からどのように暮らしたいか、何をしたいかをみつけ、職員間で共有し、希望や意向の把握に努めている。	入居時に本人、家族から暮らしの希望を聞き職員間で共有している。「私の暮らしかたシート」などを使い、日々の関わりの時間を増やして言った言葉は残すようにし入居者の思いをくみとり、意向の把握に努め、計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方や生活環境について情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、その方の心身の状態、発揮できる力をくらしの中で発見し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に接する中で意識的に本人が求めている事を引き出し、又、本人や家族の思いを基に本人、家族、関係者と相談し、介護計画に反映させています。	日々の個人記録や暮らしの情報を元に本人や家族の思いを計画にして、3ヶ月に一回カンファレンスをして、見直しをし、全職員で話し合い、次の計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や話された言葉、食事量排泄等身体的な状況など記録し、個人記録を基に介護計画を見直し評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の都合や状況に応じて通院介助を行い、又家のお仏壇にお参りしたい、近所の方に会いたいと希望があればその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の情報を得て、地域の行事に参加したり、地域の学生の体験学習の受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族、また職員の意見もよく聞き、適切な助言をしてくれ、ホームとの信頼関係を築きながら相談に応じてもらえるかかりつけ医の確保ができています。希望に応じて他の医療機関の受診を支援している。	本人、家族の希望で内科は契約医に内科以外はかかりつけ医を受診している。受診の際は管理者も付き添い、入居者の様子を伝えている。契約歯科も往診に来てくれ、入居者が安心して医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に利用者の状態など相談を行い、主治医へ報告し、適切な指示や受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族に経過をよく説明し、早期退院ができるように医療機関と話し合い、協力体制を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には急変時や緊急時の対応の説明及び意向確認をし、本人にとってどうすることが一番良いのか早期から本人、家族と話す機会を作りホームで出来る事を十分に説明し終末期には家族、医師と話しながら方針を共有している。	契約時に終末期のありかたについて説明し意向確認し、ここでの出来ること出来ないことを説明している。終末期に最後まで食事が出来て、家族の希望がある時には契約医と家族と介護職とで話し合い、医師と連携をとりながらここで出来る支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命救急の講習を受け、応急処置のマニュアルを作成し、訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、併設施設の職員の協力を得られるようにしている。又運営推進会議を通して地域の方の協力も得られるようにしている。	併設施設と一緒に訓練を行い、年2回の訓練の内、1回は消防署立会いで実施し、夜間想定訓練も行っている。台風の時には水を貯めて、備蓄は併設施設においてあり、研修で非常炊き出しの訓練も実施している。	減災に備えて地区の消防団の協力が得られることを今後期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	普段の会話も人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声掛けをしている。トイレなどの声かけもさりげなくしている。マナー研修は新人の職員に受けてもらい、それを内部研修として発表している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり慌てさせる事のないよう、本人の動きや言葉を待ち、得意な事、できる事を見つけ、それを活かしていく場面を作り、常に利用者の方に決めてもらえるような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、本人のペースを大切に見守りながら、一緒に過ごす時間をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装など利用者の好みで選んで頂き、又、馴染みの美容院にご家族様と行かれる方以外、希望があれば美容師さんに来てもらい希望のヘアスタイルにしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞き、買い物に出かけ季節の食材を選び、一人ひとりの力を活かし一緒に楽しみながら食事作りを行ったり、職員も一緒に食事し、後片付けも一緒にしている。	献立は入居者の希望を聞き、共に食材の買い物に行き、季節食材を選び個々に持っている能力を活かして食事作りをしている。職員も一緒に食べ楽しい雰囲気の中で出来る入居者は後方付けや布巾がけを行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材もできるだけ多くの物を取り入れ、バランスを考え、定期的に法人内の管理栄養士にメニューをチェックしてもらい、アドバイスしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方にあった歯ブラシを使い毎食後声掛け、セッティングでできるだけ自己にて口腔ケアして頂き、口腔ケア後必ず職員が口腔内のチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導により排泄の自立を支援しています。又、昼夜オムツカバーは使用せず尿取りパットのみで過ごして頂いています。	個々の排泄パターン表で本人のリズムを把握し、トイレ誘導の自立を支援している。自分でトイレに行ける入居者はリハビリパンツをそれ以外の入居者は布パンツとパットを使っている。便秘の人もゆっくり座って貰っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すような食材を取り入れたり、水分を多く飲用して頂けるように声かけし、又、トイレの姿勢を整える為クッションや足置き台を使用し腹圧がかかりやすいようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の回数、順番、好みの湯温等、一人ひとりにあわせ、入浴もゆっくりと一人で入って頂けるよう支援しています。	入居者の希望やタイミングにあわせて隔日に入浴し、入浴しない日は、足浴をしている。夏は毎日入る入居者もいる。柚子湯の日もあり、一人でゆっくり入ってなるべく自分で洗って貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、個別の状態や疲労に応じて休息をとるように声掛けを行っている。夜間も眠れない方に対しては、できる限り薬を服用しないで眠れるようにその原因を把握し、個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理、確実に服薬してもらえるように介助している。又、処方されている薬の内容を個人カルテに綴り、薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、服薬の支援、症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、食器洗い、洗濯たたみ等本人の有する力が発揮でき、充実感や役割を持つように支援しています。又、レクリエーション等気分転換が図れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブ、買い物、散歩等日時的に外出できるように支援している。又、行きたい場所など出来るかぎり希望に沿えるように、御家族様にも協力して頂いている。	海、遠足、花見、外食など普段行けない場所にドライブしたり、散歩や買い物などに行っている。時には家族にも協力願ひ、出かけている。初詣に神社へ全員でお参りしたり、地域の行事の餅まき等の参加して入居者は楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者はおこづかいを自己管理されており、買い物時には利用者が直接支払いを行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友達に携帯電話で話される方や電話を掛けたいと言われた時には事務所の電話を利用してもらい、話される時には職員は席を離れるよう配慮し、手紙を書かれた方には一緒に郵便局に行き手紙を出すように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる作品を一緒に作成、行事の作品を掲示し、ソファの位置は生活しやすいように定期時に見直し、また明るさや室温を調整し過ごしやすい環境に配慮しています。	壁空間にスナップ写真、行事風景、フェルト作品・かぎ編 ちぎり絵等が展示され話題の材料になっている。ソファなど配置を適時見直したり、高齢者がゆったりとくつろいだり、雑談出来るように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性などに配慮し、ゆっくり過ごせ、居心地の良い空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある私物をお持ちいただき、居心地のいい場所となるよう本人、家族の協力を得ている。	居室は本人、家族が相談しながら本人が安心できるよう家具類の配置を工夫している。遺影を置いたり、趣味の編み物をしたり、楽しくゆったりした生活を送れる様に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化などに考慮し、利用者の現在の状況に応じて生活環境を整えるように努めている。		